

クラス番号	341	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	怠け者（マイナーな存在）に優しい社会や大学のあり方を考える		
著書・論文	「グローバリズム／ラディカルソーシャルワーク／SWAN」金子光一他編著『新世界の社会福祉1 イギリス・アイルランド』旬報社, 2019, pp.85-117.		
研究課題等	（研究テーマ）グローバル時代におけるラディカルなソーシャルワーク--歴史・思想・運動		

## ゼミナール概要

キーワード：①マイナー（な存在）；②ユートピア、③現代社会（と大学）／と関わる福祉・仕事・生活

【怠け者／マイナーに優しい社会や大学とは？—こんな疑問を持たれる方はオススメかも？】

- ①「普通に生きる（正規雇用、年収五〇〇万、結婚して子ども2人、持ち家、自家用車）」は、本当にリアルか？
- ②「長いもの（多数派）に巻かれる」は、本当に心地よい／安心を個人にも社会にももたらすのか？
- ③「ギフト（贈与）／言祝ぐ態度」と福祉とは？「面白く、善く生きる」「信頼できる大人」とは？

【学生から見た伊藤ゼミ】

・「自分の学びたいテーマが分からない」「誰かとつながりを持ってみたい」「誰かととことん話し合いがしたい」という人はオススメ。先生は「努力して頑張る学生を応援／きちんと評価する」「厳しいイメージとのギャップがある」「一人一人の学生の性格や資質に沿った接し方をする」「何気ない学生のつぶやきから学び方を教えてくれる」「飽とムチの切り替えが上手い」「サボっていてもやる気にさせて」くれます。これらはすべて、伊藤ゼミに所属する学生たちの声です。（しゅーた&こーま）

・私は伊藤ゼミに入ったことで文章を書く力が格段に上がりました。先生がレポート執筆マニュアルを配布し、その後の添削も抜け目なく行ったださるからです。また、先生との学生の距離が近いこともあり、気軽にレポートや私生活の悩み事を相談しやすい点も強みです。伊藤ゼミは「大変」や「キツイ」と思うかもしれないけど、必ず自分の力となると思います！（たくま）

・「面白そう」という直感で入ったけど今では間違っていなかったと思う。今まで感じなかった学びとは何かという疑問がわき上がり、授業態度を見直す機会となった。物事を多面的にとらえ、同じ事物を違う視点や論法で読解する方法も学んだ。他の学年（縦の関係）や先生の人脈の広さから福祉に限定されない外部講師と接する機会も多く、メンターに出会えるので、先々のイメージを明確にすることもできると思う。（はるき）

・私なりにゼミを要約すると、「社会問題を歴史的に紐解き、現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを知る」です。先生に読書の面白さを教えてもらい、気づいたら150冊を読破！読解や文章力も向上し、大学入学まで一冊も読書しなかった自分がレポート執筆を通じて給付奨学金を獲得することができた！「主体的に学ばないと社会に狩られる！」と実感（笑）。でも、ゼミでは勉強ばかりでなく、麻雀、たこ焼き、そうめん大会、BBQ、他大学との合同ゼミ合宿、台湾フィールドワーク、キャンプなどをゼミ生の仲間と企画して楽しんでできました。なにか面白いことをやってみたい人は伊藤ゼミの扉を叩いてみてください。（あおい）

・先生は、なんだかんだとって、憎めないキャラだから4年間伊藤ゼミ一本で来ちゃった！（りこ）

## 担当教員からのメッセージ



私自身は、「グローバリズムとソーシャルワーク（社会福祉）を踏まえた社会批判研究」をやっていますが、最近ゼミ学生を見ていると、その問題意識や興味関心もバラバラで、実質的にやっていることを総合すると、表題にあるようなテーマが一番近いようです。従って、このテーマに繋がるならば、どんなことでもゼミで自由に検討・議論してもらって構わないし、現にゼミ学生は自分たちで決めてやっています。（私はできるだけ見守りに徹します）学生の多くは男女ともに、個性が強い人が比較的多いかも知れませんが、「マイナーでいることを怖れていない」「面白いこと」を学生として探している人たちかも。マイナーは自由と個人を大切に、社会のマジョリティに安易に溶けないし、マイナーならではの生き方は、矛盾するようだけど社会的連帯もできるということですね。これを探究するのは、楽しいものですよww、大事なのは、社会に対して個人として対峙できる社会的な感性です。